

京橋の印刷

8月31日 1988・No.71

東京都印刷工業組合京橋支部
〒104 東京都中央区新富1-16-8
日本印刷会館 3F 電話 552-1855

発行人
大竹次郎

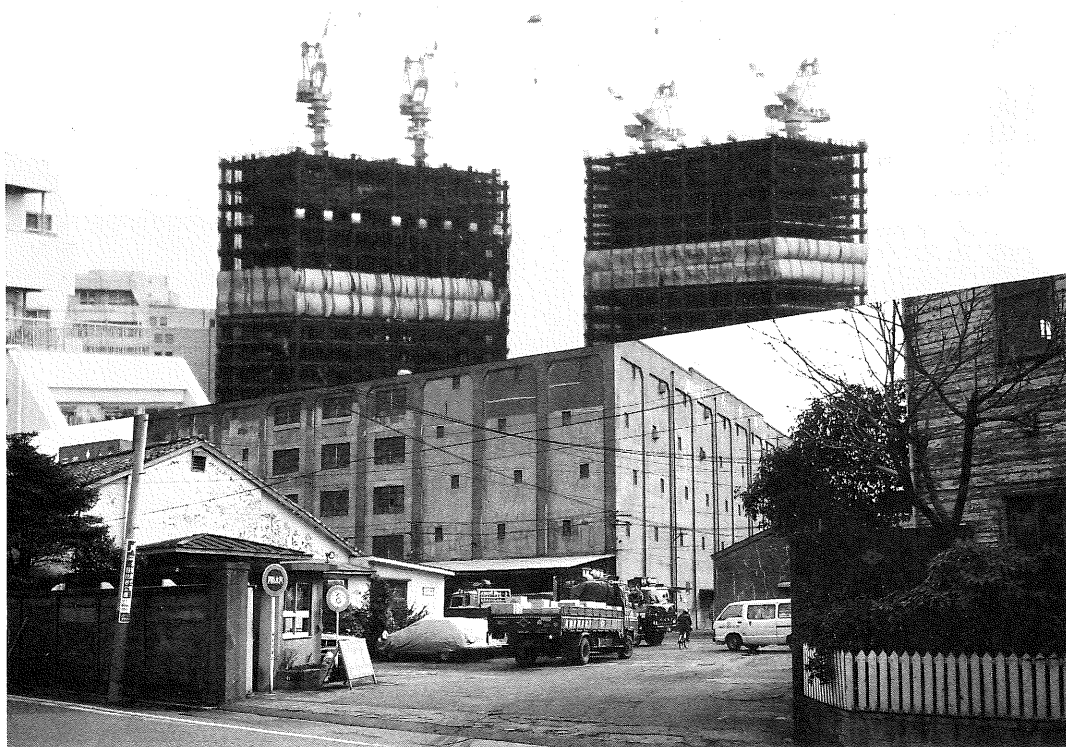
ごあいさつ

支部長 大竹 次郎

残暑お見舞申し上げます。今年の夏の異常気象は、予測のつかない事とは云いながら、業種によっては、農業を始め大変な痛手を蒙っている産業が多い事と違います。幸い印刷関係には直接影響は無いとは思いますが、夏はやはり暑い方が良いのではないのでしょうか。

さて今年度より支部報の編集プロセスを変え第一号が発刊されました。地区のローカル色が強いかと思われませんが、地場産業としての印刷業の今後の在り方について、地区の特色、又関連産業・他産業の方々にもご参考に供する事が出来る事と存じます。又アウトサイダーの方々にも是非ご一読願ひ加入して戴けたらと存じます。本部の諸事業も、各委員会報告等、「東京の印刷」等でご承知の事と存じますが、特に今年度から労基法等の改正により、今後の労務対策に大きな変革をもたらす事と存じます。受注産業として労働時間の短縮等各位におかれては充分ご検討下さい。支部としても、研修会等の開催を企画し何等かの一助にさせて戴きたいと存じます。

今年度は中央区工業文化展の開催年度に当たり、10月20日より23日まで月島の区社会教育会館にて開催されます。今年度は区の月島晴海地区の活性化の諸事業の一つとして見て頂き、又再開発構想をご覧下さい。組合員各位には、区と工団連よりご案内が参る事とは存じますが、ご協賛をお願い致します。事になりますので宜敷くお願い申し上げます。



<座 談 会>

新川地区はどう変わる

出席者 今田酒類販売(株) 取締役社長 今 田 周 作 氏
三井銀行新川支店 支店長 今 大 津 稔 氏
(株)大竹印刷所 取締役社長 大 竹 次 郎 氏
(司 会) 伊坂美術印刷(株)取締役社長 伊 坂 元 延 氏

伊坂 本日は、皆様にはお忙しいなか、お集り下さいまして、ありがとうございます。

私共、印刷業界の集りである「東京都印刷工業組合」という組織があります。そのなかの一支部として「京橋支部」があります。加入社数は約二五〇社です。この京橋支部で「京橋の印刷」という支部報を発行しております。

今迄は支部の役員が役員のなかで編集委員を決めて発行していましたが、今年度より、ここにいらつしやる大竹さんが京橋支部の支部長に就任され、大竹さんより、支部報を発行することについて、「各地区の特色を出した方が良いのではないか」との提案がありまして、各地区が担当して自由に企画、編集することになりました。

京橋支部は九地区に分けられていまして、この新川地区は第七区になっています。加入者数は年々減っていますが、約四〇社です。

この担当を決めるためにクジ引きをいたしまして、今年度より新川地区長になりました私が一番クジを引きあててしまいました。宝クジはあたらないのですが……(笑)。

支部長になられた大竹さんは、この地区員です。結果的には非常にツイていたのではないかと思います。各地区の特色を出す支部報の第一回目を自分の地区が担当することになりましたので……。

本来ならば大竹支部長はこのような席に出てはさしさわりのありますが、本日の座談会では、新川地区の一員という立場で参加していた

できます。まず冒頭にお断りしておきます。

本日は地区長である私が司会を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。司会 技術革新の激しい現在、印刷業界の内でも、いろいろな問題がありますが、特に新川地区は、印刷にかぎらず、ここに住んでいるということ自体からも非常な変化があったと感じています。

この新川、昔の霊岸島、越前堀といったこの地域一帯は、この川を利用して、灘から運んできた酒を商う酒問屋さんが栄え、それから倉庫業、運送業も盛んでした。印刷業も一品毎の配送があり、同じような面があるのでないかと思えます。新川地区の印刷業はお酒問屋さんを抜きにしては考えられない“と親父から聞いております。

そうした意味から、申し訳がなかったのですが、酒問屋さんの代表ということで今田さんにご出席をお願いしました。

また地上げ屋さんのバックにいるといわれる銀行さんも、この新川に進出されております。そんなことから、金融界の代表ということで大津さんをお招きいたしました。

私の知っているある銀行などは表通りの角にありました支店を引っ越していきましてのに、またここ新川に戻ってきております。ということは、この地区に非常な魅力があるのではないかと信じております。これから、印刷以外で儲かることがあります。地区の皆さんにだけは内緒で教えていただき、儲かる商売をしてい

ければと思っております。(笑)

まづ最初に今田さんに新川のルーツから、地上げの問題、これからの新川というお話で話し頂きたいと思えます。それから倉庫、配送のこともふれていただきたいと思えます。

印刷というと京橋といってもいいと思うのですが、新川といえば酒問屋さんというイメージがありますので、是非よろしく。

今田 ご指名がありましたので私からお話しいたします。

私のお聞きおよぶところでは、この新川地区は江戸時代に廻りますが、靈巖寺というお寺があります、有名な振袖火事という、たいへん大きな火事のと被災者が集って霊をともらった。それから河村瑞軒という篤志家が川を掘りまして、この地域の活性化をはかったということです。

私は酒業界の先人のあとをついで現在にいたっていますので、先輩から聞いた話を申し上げてみたいと思えます。

最盛期に新川近辺には掘り割りに添って、数十社を越える酒問屋がひしめいてたいへん盛況なところでして、いまでいえば魚河岸のようなものです。東京近辺から、皆ここに買い出しに来たのです。大八車を引っぱって買いにきました。それで取引が成立しますと、ちかくの茶屋に繰りこんで一杯飲んで帰るといわけです。そんなことから、酒問屋とともにいわる花柳界も盛んになりまして、芸者も大勢いました。この新川芸者を一名、"こんにやく島芸者"

ともいいました。つまり、新川近辺はいわゆる埋立地ですから、そういう呼び方をされた様です。こんなわけで、こんにやく島は酒問屋でもったわけです。

酒といえば、一般に灘近辺の酒がおいしい酒といわれていますが、私は歴史的にみて、醸造学的にみますと、おいしいからというよりも、昔のお酒は腐るか腐らないかが勝負だったわけです。そうなりますと、水質であるとか、お米であるとか、気候風土が酒質に影響して、灘近辺は"宮水"といまして酒を造るには適した水が湧いたところで、そこに丹後、丹波あたりでは酒には好適な質の米ができ、さらに気候的にも、六甲おろしという冷たい風が吹いているということなどで気象条件もよく、そういったこと自然にいいお酒ができたのです。

いいお酒ということは腐らない酒、すなわちアルコール度の高いお酒ができたわけです。今でいう"辛口"の酒ですね。辛口というのはアルコール度が強いから、"甘口"というのは米の澱粉が葡萄糖に変わり、麴で葡萄糖にするわけです。それを酵母がたべてアルコールになるわけです。このような一連の発酵過程があるので、その甘くなる段階で終るのか、その甘いものを酵母がたべて全部アルコールにしてできあがるのか、ということ辛口か甘口かということになる。

ですから一般には、灘の酒は辛口の酒で、それを"男酒"といいます。それにくらべて伏見とか広島酒は軟水醸造で、平たくいうと、水

が酵母を培養する上で、水の力がないので甘口の、きめの細かい、女肌のやわらかい酒ができます。これを"女酒"というように呼んでいます。

このようなことで、灘で造った酒は遠くまで運べるわけです。紀州を廻って千石船で運ばれてきたわけです。品川沖まで大きな船に積んできて、そこから舢に移されて新川まで来るわけです。

昔は四斗樽でして、上げ潮になると、それに





今 田 さ ん

合せて隅田川を上って新川の堀り割りに入ってきたのです。

この新川で停泊している舳からあゆみを渡し樽をこらして荷揚げするわけで、それには技術がありまして、「樽ころ」という専門の非常に力の強い人がいました。ですから新川から相模の力士がでたということです。大谷重工の創始者もその一人といわれています。

このように新川は荷揚げ場所として、「市」がたち、賑わっていました。

司会 そうすると、ここに堀り割りがつくられたというのは、お酒を積んだ舳を入れるために造ったわけですか。

今田 そのほかの水利もあつたのでしようけれども、東京湾のすぐ河口ですから、あれだけ重い樽を荷揚げするには一番よかつたのでしようね。

今は全てが陸送になりまして、昔を偲ぶよすがもないのですが……。

まあ、私どもは酒問屋発祥の地である新川と

いう土地に惚れており、離れがたく、未だに頑張っているわけです。(笑)

司会 私が聞いた話では、昔は酒は灘で仕込んで樽につめられ、新川までくる間に、船にゆられて、樽の香りがしみこんで、おいしくなるのか……。

今田 そうなんです。木の香りがカッポン、カッポンとゆれているうちに移りますからね。「木香」というのです。丁度、新川につく頃までにごろあいな香りがつくのです。

司会 昔聞いた話ですが、水は腐るが、船に乗っている水は腐らない。船が揺れて水が動き腐らないとか。陸送になっても同じですか……。

今田 今は殆んどビンでしょう。ですから木香はつかなくなりまして。

司会 そうすると、昔は防腐剤がなかったからですね。

今田 そうです。昔は重い荷物を積んで箱根を越えることは、たいへん難儀なことでしたから。すべて水利です。水利によって産業が発達していますね。

司会 中東のチグリス、ユーフラテス川の発展と同じですね。川があつたから発展したんですね。その頃は倉庫は川べりにあつたのですね。

今田 そうです。川べりからそのまま樽をころがして倉庫に入れるわけです。

司会 今はもう倉庫などはないですが、川が埋ってしまったからですね。

今田 新川という川は、この一帯が戦災で焼けてしまい、その焼け跡の残土の処理に困ったわけです。その処理に、あの川に捨てて埋めてきました。本来、埋める必要はなかったのですが。

その当時は今のようにはトラックやダンプなどの運搬手段がないですから、私もやりましたけれど、リヤカーを引いて残土を川まで持って行って、ひっくりかえして捨てたものです。それであの辺が平らになったのです。

司会 今は酒問屋さんですから倉庫から大量の品物をトラックで運んでいるでしょう。

今田 その後の状況を申し上げますと、得意先はもちろん東京全域になりますね。それを賄うには新川の倉庫から品物を運ぶよりも、あちこちの倉庫に品物を点在しておいて、配送半径を短かくした方が効率はいいわけです。それで陸運を中心にして、出張所等をつけて物流を合理化してきたわけです。酒問屋も方々にちらばっていきましてね。

そんななかで、新川地区は中央区という大消費地を控えていますから、ドサツと荷が入ってくるわけです。年々地価が上昇し、ここまできてしまいますと、酒という嵩張って重い割には付加価値の低い商品をこの土地に置いたり、土地を買い増してやる程の商売では完全になくなりました。ですから物流基地はそとに出していく傾向にあります。

ほかの業種でも同じでしょうが、昔は割合に商品の種類が少なかったのです。ビールを例にとっても、大びんがあれば、だいたい賄えたわけですが、今は何百種類という膨大な種類にな

り、それを消費者が求めているわけで、多様化の現象がおきているわけです。その背景には飽食があるわけです。みたされているのですが、今まで食べた物はもう飽きてほかに何か変わったものがあると、ちよつとつまんでみようか……という、これが飽食時代の特徴なのです。

ですから有名なお酒がいろいろありますが、従来のナショナルブランド物の売り上げは下ってきています。これは多様化現象でして、変わったもの、今評判のものなら、飲んでみようという消費者の嗜好が多様化しているわけです。浮気っぽくなったのです。そうかといって、それに応えていかないと、売上げががらなくなってしまう。

消費者の好みに合せて新商品を開発していく、まあ考えようによっては生産者の受難時代ですね。開発しても、その商品が当ればいいのですが、その保証はまったくないのですからね。なかにはヒットする商品もありますが……当たれば売り上げも倍になることもあります。これも飽食時代の特徴では……。

司会 倉庫の問題でも、配送の点でも印刷業と同じですね。

今田 一般の小売店は品種が増えたからといっても、それに応じて購入量をふやしてはいけません。今迄と同じ坪数で多品種の商品に対応しなければならぬから、一回の購入単位をへらすのです。ですから単品としては減る一方なんです。それに対応する問屋は多品種小量の注文に応えられる体質改善が重要なのです。私

どもとしてはコスト的にたいへんデメリットな商売となってきましたが、……。

司会 お話を伺ってみると、商売というものは根本的には皆同じですね。非常に似かよったものが印刷業にもあります。印刷でも酒屋さんでも重いものを持つ人はだんだん少なくなっていくのですね。

今田 若い人はまあ傾向として、楽をして多くの収入をもらいたい、という心理があるのでしょうからね。それに反比例するような仕事ですから、人を確保するのも難かしくなりました。特に配送問題はこれから大きな問題になるのではないでしょうかね。

内需拡大をして日本全体では景気がよくなっているのですが、こと配送だけをみますと建設関係にかなり車をとらねだしている。そうなる、私どものように重くて運びにくいものは、同じ手間をかけて同じ金額をもらうのなら楽な方がいいということ、配送問題で、これからどうなるか、私どもは心配しています。

また同時に配送費の単価があがってくるのと、商品の多様化に対応していく上でも配送費はこれから大きくなる。

司会 私どもでも配送費は毎年うなぎ昇りにあがっています。

今田 おそらく、これからも上がっていくでしょう。

司会 テリトリの中にあちこちに集荷センターを持っていて、注文に対応するわけですか。今田 酒の販売は免許制ですので、受注活動を

するには免許がないとできないんです。ですから新川地区では受注センターは免許がいります。そこで注文をとって、あとはトラックで各地の蔵置所へ出荷指図をします。

私どもの場合、一台の車を一日に何回転させるかで勝負になるのです。小売店は在庫を少ししかしませんので、今すぐ持つてこい、という注文もあり、とても受けられないという売上げがあがらなくなる。

司会 ビンが割れることもあるでしょうし、そのほかのリスクもあるでしょう。破損率というものはあるんですか。

今田 箱で売るのはいいのですが、小口化のためバラ売りますと残ったものの管理、倉庫内での破損などピッキングが多いと割れるということ。このように商品管理と破損、それからバラになった不動在庫、日付が古くなってしまふ等いろいろな面でむづかしいですね。

司会 伺っていますと、形は違いますが、私達が悩んでいるのと全く同じ問題ですね。

今田 大きいえば日本全体が同じような状態でしょう。

司会 一つ助かるのは、私どもは受注してから作る産業ですから、まだいいのですが。印刷業も利幅が少ないので、こうして何んとかやってこられたと思います……。

今田 我々の業界も同じことで、利幅がないから、合理化を進めたり、生活態度、物の考え方を地味にやる。やはり、「商い」というのは、「あきない」ことですね。根気よくやらねばい

けないんですね。あきないことが永く続く基ですから……やはり大きく儲けるところは割合、急にまづくなるところが多いですから……。

司会 現在新川に住んでおられる方でも、ほんとうの新川の成りたちを知っている方は少ないんじゃないでしょうか。

今田 そうですね。もう古い方もなくなつて、少なくなつていきますし、戦後から四十三年になりますから……。ついこの間のように思われませんが……。

大津 酒問屋さんは日本全国から集まつてきていたのですか。

今田 私どもは広島なのですが、問屋はだいたいの江州店が多いです。滋賀の出身です。星のつく屋号が多いです。大星、金星等これらみな江州店です。やはり江州は商売にかけては一流です。それに伊勢の方……。

司会 では大竹さんいかがですか。

大竹 私ども印刷業の新川でのルーツは酒問屋さんとはちがつて、どちらかといえれば戦後、新川の産業として盛んになったと思うのですが……。霊岸島、越前堀、新川といえますと戦前は倉庫業がさかんで、昭和十五年に勝関橋ができて、それを境にして、大川端の倉庫が越前堀から箱崎、江戸橋と川の流れにそつてあつたのが、港区の方に移つていきました。

今の小川運輸の所が東京湾汽船の発着所でしたから……。

司会 東京湾の玄関ともいえる入国管理事務所がずいぶん長い間ありましたね。

大竹 入国管理事務所が向うへ移つたのは、やはり勝関橋ができてからでしょう。開閉橋ですが大型船が入れないということ……。

霊岸島は戦前は倉庫に付随する船の関係者の住んでいたところで、住宅地といつてもいいと思いますね。

その後、昭和二十年三月の戦災で焼かれました。私どもはその当時は八丁堀にいましたが。それからあと、時代の流れで印刷業は戦後の新しい地場産業として霊岸島に芽ばえてきました。戦前ですと印刷業者は伊坂さんをはじめとして数社しかなかった。新川地区は八丁堀と一緒の地区になつていましたから……。萩野さん、伊坂さん他に二、三社しかなかったと私は記憶しています。

私も昭和二十一年に八丁堀から、こちらに来たようなわけで、越前堀、新川で営業されている印刷業者は、だいたい八丁堀、湊町からわかれた方が多いんです。昭和十六年に企業整備令で企業が統合され、戦後、復員で帰つてきても帰るところがない、ということ、この辺ではじめた方が多いのではないですか。私はそのように聞いています。

戦後四〇年、震災で木挽町から湊町、八丁堀へ移つた方が、戦災で新川に移り、それから今度の“地上げ”でまた新川を追い出されるわけです。(笑)

先程からの今田さんのお話になつた酒問屋さんと印刷業との共通点はあるのですが、印刷業は中央区の工業となつていまして、商業地域で

の工業と商業地域での流通業との差はあるのです。商業地での工業はどうしても制約がきびしい。面積とか動力とか、共通するのは“在庫”、“配送”という点ですか。商品の在庫、配送の面で中央区は顧客に近いので便利ですが、在庫が多くなると場所がない、という問題があります。

それから印刷は関連産業が非常に多いということ。一つの地域に印刷、製本、紙商、製版等の業者等が集まつて成りたつていくわけです。印刷業者だけで全て自前で営業していくことはなかなかむづかしいのが業界の特色です。ある程度の生産規模というか、印刷関連業者が集まつていないとうまくいかない。

今、新川地区は地上げ問題で印刷関連業を含めて、深川へ移つていかなければならないという事は、やはり場所が狭いということ、それと倉庫がないということ、これが問題点です。

通産統計では、印刷業は工業となつていますが、私は二・五次産業、要するに第二次産業と第三次産業の間にあると思います。これからは生産と販売とが分かれていくのではないかと……。今の時代の要求を充たしていくには、そうなるのではないかと思います。

一つの例ですが、カタログなど商業印刷物はカラー印刷がふえている。カラー印刷をするには、かなりの設備投資が必要となる。書籍などは、かなりの設備投資が必要となる。書籍などは文字物を印刷するには、電算写植機、ワープロ等と大きな資金がかかる。また帳票など事務用品印刷でも“手書き伝票”が機械帳票に変わると



大竹さん

か、広い範囲になり、設備資金がいる。反面、お酒の話ではないですが、印刷のルーツは「名刺」にあるわけで、名刺を印刷しなければいけない。(笑)名刺を千枚でお安くしますから買って下さい。といってもお客様は百枚しか買わない。こんなところに印刷業の悩みがあるのではないかと思います。

新川の印刷としての概要はこんなところですよ。今田 そのほかにもう一つ特色といいますと、新川は職人の町ということです。江戸時代から「職人」が多かったです。私の住んでいる横丁だけで、壁の竹を編む「こまいや」さんが一軒、左官屋さんが一軒、ペンキ屋さんが三軒、建具屋さんが二軒、畳屋さんとトビの親方、それに大工の棟梁がいます、この横丁だけで家ができちゃうんですが、あつという間にいなくなりました。気前よく……(笑)

司会 江戸っ子気質の人が多かったんですね。大竹 その反面、気前よくこれに乗れずに、この地区に残された方も結構多いですね。何と

なく出そびれちゃった人が(私もそうですが)案外多いんじゃないですか。この地区でとり残されている方で、自分のところでどうしても商売しなければならぬという人は少ないと思います。

司会 深刻な問題ですね。

今田 例えば配送一つをみても、私どもがこの地域で仕事をする場合、自分の庭に車を入れて荷物を積むなんてことはしていないですね。道路に置いて積むのが当り前のようになっていきますね。本来倉庫というのは自分の敷地で積みおろしをするんですが、とてもそんな悠長なことはしてられない地価ではないですね。

大竹 東京全体からみて、いままで再開発(この言葉はよくないのかも知れませんが)から置き去りにされてきたと新川の場合はいえると思います。ですから再開発された他の地区とは異なるものが、この新川には基本的にあると思います。例えば箱崎に、ああいうものができたことも、地下鉄が通るのも、これは一朝一夕にできるものではないのですが、こういう便利な地域になったこと、これは偉い人が考えた事かどうか知りませんが、まあ東京でいえば新川は置き去りにされた最後の「宝庫」です。(笑)そのなかに、たまたま酒問屋や印刷業者があったということですね。私は以前八丁堀に住んでいましたが、新川の方が日比谷線、東西線が通り便利な地域になっています。

今田 いきがりやを棚上げて、客観的にみて、茅場町、兜町という証券街が国際化しようとし

ている時、日本橋の方向ですと割高ですし、どうしても割安の方向に拡大しようとするのは一つの自然現象でしょう。同時に大竹さんのいうように、拡大しようとする地域と東京駅を結ぶ接点にある新川の開発がおくっていたということですよ。

大竹 住友新ビルでも、箱崎でも、あれだけの大きなスペースがあった事が活性化させる、しなければならなかったということではないですか。それがたまたま住友であり、三菱であり、三井であつて、そこに広い場所が残されていた、ということではないでしょうか。

それが新しい時代に必要なものとして使われているということになれば、その内側というのは否応なしに、こういう形になる可能性が多いのでしよう。

大津 そうです。私ども銀行側から見ますと、銀行が去年から今年にかけて、なんで新川地区へ銀行が四行、進出したのかといえば、一つは東京が世界の金融センターとして位置づけが上がつてきたことです。では銀座でも茅場町でもいいじゃないか、となりますが、残念ながら大規模にまとまったオフィスビル用地がなく、東京駅を中心として一・五キロのコンパスを廻すと、残されているところは新川地区しかない。しかしながら当地区は交通の便が悪く、職住混在といえますか、家内制手工業的な企業が多く、ビジネス地区には適さなかった。

そこへたまたま、こういう時代の流れというか、大きなうねりの中で、倉庫会社は広い土地



大 津 さ ん

の有効活用ということで、高層ビルを建てる、それから交通アクセスに対する二つの大きなプロジェクト、第一は東京駅から大川端、そして対岸の石川島の跡地までの道路拡幅と新佃大橋の建設。第二に京葉新線が東京駅まで乗り入れ、当地区に新駅が設置されるという、この二つの大きな流れが重なって、この地が注目されたわけです。

銀行が進出するのは今のマーケットを重要視しているが、むしろ、これから五年、十年先を見越して早く進出しておこうというのが実情ではないかと思えます。現在四行ですが、将来はもっと多くの銀行の進出も予測されます。

銀行にとって魅力があるマーケットというわけは、例えば住友ツインビルに世界的な大企業が入居し、そこに大勢の人が集まってくる。また箱崎の三井倉庫の跡地にできる高層ビルにもIBMが、三菱倉庫の跡地にも三菱系の企業が入居することが予測されます。そこに人、物、金が集まってくる。銀行はそれを当てにしてい

るわけです。

今は銀行は何をやっているのかといえば、一番目はお客さまの土地の有効活用をお勧めすることです。今田さんからお話しがありましたように、坪何千万円もする土地に一升びんやビールびんがゴロゴロ転がっているわけです。(笑) これではとてもじゃないですがもったいない。もっと有効活用する方法があるでしょうと働きかけ、ビル化をお勧めしているわけです。

二番目には、ニューリッチになられたシルバレイジの方々には相続対策や事業承継を働きかけています。

三番目は土地を売却した時に伴う、いろいろの問題について、お客さまより相談をうけアドバイスをしています。

大竹 私共は、やはり新川を永い間、生活の場にしており、将来どうなるか、我々の代には判らないとしても、やはりそういう下地作りといえますか、それは中途半端なものにしたくないという希望があるわけです。

土地を有効利用するのなら、それで将来、子供達の時代になったときに、新川というところがこのように変わった、そのためにはやはり私権というものも大切ですが、マクロ的にみてどうかこれからの新川をどのようにしていくのか考えてよい時期にきていると思います。

小さな印刷という一つの業界でなく、新川地区の皆さんの共通した問題として、ご理解して頂ければいいのではないかと思うのです。確かに酒問屋さんは倉庫など広い面積がある。印刷

業は小さな場所で行っている、ただ企業の数では多いというわけで、この二つの特色のあるところを、お互いにコンセンサスをもって、この地区の未来像をつくるべきだなあと思うのです。中央区は定住人口が欲しいといいますが、我々はいままで工場をつくってはいけないういわれてきたわけで、住んでいるところを工場として何んとかやってきたわけですが、今度は人口を増やせということです。実際問題として定住人口が都や区がいうように増えるのか、どうですか。

大津 私共がお客さまのビル化プロジェクトにかかわっていますが、商業地域で夜間人口を増すには住宅を増やすこととして、住宅をつくれば容積率をもっとアップしましょう、という中央区の指導はあります。

現実に倉庫会社の跡地にはオフィスビルに付随して住宅もできます。たゞこういう付置義務はある一定以上の大きなプロジェクトに適用されるようです。

中央区が地元の皆さまの中に入って話し合いのついでに事を聞いています。

たとえば再開発によって、他所へ行くのではなく、ここで住んでください。この場所に住みながら、数十世帯が集まって共同でビルを建てれば大きなビルになります。その家賃収入で、より以上の生活設計も可能です。と皆さまと一緒に考えて、計画を実現させるべく進行中のプロジェクトもあるようです。

大竹 これは中央区でも場所によって条件は違

うと思います。たまたま新川の場合は比較的に地上げ問題が早い時期に始まったということなのです。それで都や区の規制ができる前に虫喰い状態になってしまった。今の天津さんのお話は他地区の場合でして、区が中心となつてなるべく人口が流出しないような方向でやっているようです。残念ながら新川の場合は今のお話のようにビル、マンションを建ててやるにしてもそれをどういう形で運用していくのか、これだけ地価の高い所にできるビルには普通の生活者では入れないでしょう。それに学校問題なども付随してきます。

定住人口を増やすことと、この再開発とは当然矛盾がでてくるのではないかと思います。

大津 ありますね。

司会 佃島の高層マンションの賃貸料が三〇万円で管理費を加えると四〇万円になるとか、私にも話があつたのですが、私どもは親父よりの相続税も払わねばならないので、とても入れないです。払っていきません、払える人は少ないでしょう。

大竹 まあそれだけの家賃を払うには年収一、五〇〇万円以上のものがないと入れないでしょう。

今田 会社が社宅として借りるとかでない個人ではとても無理ですね。個人では払いきれない。そうすると世帯主はいないわけですね。これも困る。(笑)

大津 たしか公団が二五万円、三井が三〇万円位ですか。はじめの計画では分譲にしようとか

でしたが、諸般の事情で賃貸になったようですが、私もどういふ人が居られるのか、家賃を払って生活できるのか、会社が個人名で申し込むのかな…等興味をもってんでいます。

今田 個人ではなくて駄目なんですか……

大津 一部会社で申し込めるようですが、大半は個人に限られています。

大竹 中央区に会社のある人は会社で申し込めるのです。

ですからそこに矛盾があるのです、定住人口を増やそうという反面、小学校を統廃合という問題はもってきているわけです。小学校を統廃合するのは当然人口が減ることですから、減るであろうという想定のもとできているのではないかと、人口を増やせといっているのに……このへんが区側でも悩んでいる問題だと思つています。

我々新川地区だけに限定するわけにはいきませんが、時代の流れというものを、ここに住んでいるあるいは仕事をしている方々が未来像を考へる時期に来ているのではないですかね。そうしないと第二次の地上げとか、他からの資本によつてすぐ切り崩されてしまうでしょう。今このようないことが起り得る可能性は多いのではないかと思います。

先程のお話で銀行が五年、一〇年先をみて進出しているということをみても、逆にいえば今はあなた方を相手にしていませんよ、というわけで、早く今いる方々が銀行とかかわりを持つれば銀行も一日でも早く採算が合うようになる

のではないかと思います。(笑)

この前に伊坂さんにはお話ししたのですが、この地域のパーキングメーターについても、こういうものが堂々とつけられているわけです。

これは今迄我々が仕事のなかで酒問屋にしろ印刷業にしろ、車が来るのは当り前で、物を運ぶのだから、しょうがないと思つている。そこへパーキングメーターをつけて第三者に堂々と金さえ払えば車を置いてよいという、我々の今までの既得的地権というものは逆に犯されている、国からみれば、あなた方が間違つていますよというジェスチャーではないかと思つています。うちにはパーキングメーターはいりませんよというと公正の原則に合わないわけです。

こういう事をやはり地場産業としては真剣に考えなければいけない事でしょう。大きな車が入れば事故も起こる、それからいつも線を引いて駐車禁止とかやっています。これらの事も果してどちらが悪くて、どちらが良いのか、車が増えるからそうなるのだろうし、我々としては来てもらいたくない車もどんどん入つて来る。場所が栄える“ことは逆にそれだけ制約もふえることではないでしょうか。

酒問屋でも印刷業でも倉庫の移転というなかで、反面、ファックスとかテレックスとかの情報機器を使うことによつて、今迄集中していたものが分散できるようになつたので、このあたりをうまく使うことがこれからの地場産業としての生き方で、酒問屋にしろ印刷業にしろ何も引越すことはないと思うのですが。ただこ

今迄のような形で仕事ができるか、どうかは問題でしょうね。

今田 そうでしょうね。酒問屋仲間て話し合うことは今のところしていませんが。結局、商売は伝統ある新川の地で、物流は適所で……ということになるのではないのでしょうか。今のお話の中で感じるのには心情的なものがチラチラあるのですね。やっぱり永くこの地に住んでいてもう理屈ではないんだと、銭、金じゃないんだという、そういったものがあるのですね。私は生まれてこのかた、当地に住んでいます。実際外からみるとこの騒々しい所によく住んでいるなあ、と思われるのですが、ここに住んでいるものにとっては、とても快適なんです。日曜日なんか人が居ないんですよ。(笑) 夜もまた静かで昼間さえ我慢していればよい。それと子供なども学校に行くにも人の流れが逆ですから全部すいています。ですから実際ここに住んでいない人には判らないですね。住めば都です。まあ目に見えない心情的なものもあります。

ただ、今は急激に大きな変化が起きたため、新たな問題に取り組まなければならないのが現状です。

ただ冷静に考えてみれば社会的な大きな流れの中で我々の心情的なものをどうするかということですが、それはやはり呑み込まれて行くでしょう。ちよつとしたビルでも石ころだものね。(笑) 石ころをボンと片付けるようなものです。それと歴史的にみて、居住地は日本では川筋というのは貧民が多かったのですが、ヨーロッパ

パなどでは川筋は高級住宅地ですね。全く背景が違うのですが、この発想が我々のところにもはいつてくるのです。

これは大きく変化していく可能性が強いですが客観的にみてです。そういう事になると、かなり大きな、まとまった土地に道路から下がって、かなり大きな建物をつくり、また道路も広げていく。川辺を埋めて憩いの場、散策道などをつくり、国際都市の中心地に相応しい、感性豊かな美しい街造りをする。それ位の考え方をもちこまないとは本格的な街づくりにはならない。これは私の心情抜き意見ですが、そういった二つの考えが同居しています。

大竹 街は無限であり、人は有限である。そこに相続とかの問題もでて来るわけです。

個人の感情でも人生の中で、みな受け取り方が違うのですね。こういう時にでて全部ちがう、共通点がない。

司会 いづれにしても押し流されざるをえないような感じで……

今田 否応なく押し流されていきましたね。力ずくですよ。お札で頭をタタかれるから……

大竹 街全体を付加価値の高い街にすべきじゃないかと思えます。行政もあるでしょうが、私もそれを考えていかなければいけないと思えます。

伊坂さんの会社に通勤する人達はここについてどう言ってますかね。

司会 ここは便利でいいという話ですね。遠くになってしまったけれど、いいと……

今田 これは私達の同業者で、事務所を日本橋から深川に移転したのですが、そのとたんに変ったことは女の子が皆やめてしまったのです。その会社に来ているのではなく、日本橋に勤めている。(笑) 不便な所へ移ったので女の子は恰好が悪いのか、日本橋だから来ていたのか、これは考えておかなければいけない。男は世帯を張っているので軽卒にはいきませんが、女の子は我々が考える以上にアツサリしています。

大竹 朝晩みえますと、町を歩いている人のスピードが早くなっている、それだけ年齢層が若くなって、若い人が多いのか歩くスピードが早いですよ、ここ二、三年痛切に感じますね。交代通りなど昔は女性が歩いていることは少なかったのですが、今は若い女性がどんどん歩いている。茅場町の駅を降りる人も町の中を歩いている人の層も変わっているのではないですかね。

司会 オジン街道からレディ街道ですか。(笑)

今田 地下鉄の茅場町駅は電車を降りてから地上に出るまでに時間が随分かかるようになり、人の波がすごいですよ。まだまだ多くなりそうです。

大津 住友ツインビルでも、勤める人が二、五〇〇人位です。それに付随して出入りされる人が同じ位です。合せて五千人数の人が出入りされるわけで、背広を着た人が多いですね。問題はお昼の食事、夜の一杯飲屋。いづれも満員で空きがありません。寿司屋などは夜十時頃まで満員のように。今後ますます繁昌するように

なるでしょう。

今田 飲食業はそれなりの付加価値は出るが、借りる場所が高いですからね。そのへんの兼ね合いですね。

大津 あれだけの大企業が入ってきましたので、そこに関連する業者がいるでしょう、その人達がいずれまたこの近くに移って来るのではないかと我々はみているのですが、したがって銀行は法人取引と個人取引の両方、いかなれば金を貸すマーケットと預かるマーケットの両方でできます。したがって銀行が皆でてくるのです。皆さん方のお悩みも確かによくわかります。我々の見方として、第三次産業的な企業が例えばソフトウェア、金融に付随した企業の進出が多くなってくるとみえています。したがってここで印刷をするのはちよつと勿体ないのじゃないかと印刷は少し遠い所に行かれて、ここは別な業種になさった方がいいのじゃないかという気がするのです。

今田 やはり土地単価に見合った付加価値の高



伊坂司会

い仕事をしていかないとペイできないでしょうね。大津さんのおっしゃる通りです。ただインテリジェントビル化するのか、あるいはオフィス街になっていくのか、これは大きな違いですが、銀行はやはりオフィスビルの方がいいのでしょうかね。人も金も動くし……

大津 オフィスビルは出来るだけ大きくし、インテリジェント化した方が良いテナントが入居しやすく、よいと思えますが……、

自己資金で建てられる方は限られており、何がしかの借入金で建て、家賃収入で返済し、生活をするとした場合、ある程度まとまった土地でないと利用価値がないのですね。たまたま自分のところは儲かっていらして運用の方は赤字でいい、節税になればよい、というなら別ですが、どうもそんなケースは少ないですからね。そうすると少くとも五〇坪以上の土地があれば何んとかないと思います。

司会 小さいビルは空き屋になるのですかね。

大津 そうなると思いますよ。

大竹 そうですね。ますますまらなくなるでしょうね。供給過剰になってくるのでね。

そこに適性生産規模というかビルにも適性面積というのが出てくると思うのです。それが我々の業界でも構造改善ということで、小さなもの同志でまとまりなさい、というのですが、なかなかそれがスムーズにいかない、オレのところはオレのところはでやられるので問題なんです。

大津 私の調べたところでは新川地区で今ビル

を建設しているところが三一社あるのです。プロジェクトができてるのが四二・四三あります。それで我々が注目するのは、やはり住友ツインビルのまわりで、この辺はかなり大型のビルが予定されています。この辺はかなり虫喰い状態です。

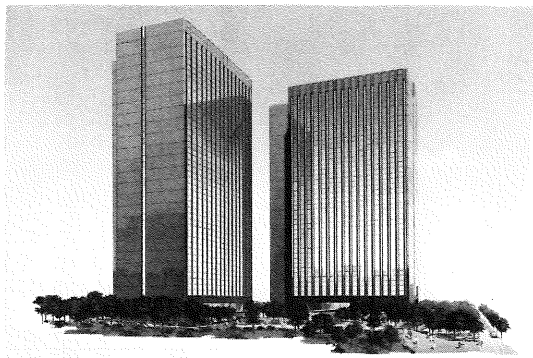
将来はこの辺は金融街になりそうですね。いままではニューヨーク、ロンドンが金融市場の主役でしたが、通信手段の発達した現在では、世界で一番最初に夜が明けるのはオーストラリアですが、そのマーケットはたいしたことはないのです、東京が一番目にオーブンするとみえない訳です。今は二十四時間体制になっていますので、東京↓香港↓シンガポール↓巴厘ーン↓ロンドン↓ニューヨーク↓ハワイとなつてますので、やはり東京により情報が集まるといふ事です。

大竹 先程の話ですが、再開発するについて、下町というのは私道が多すぎるのです。かつての小さな住宅が多かったたので、この私道が占める面積がけっこう大きいのです。だから大きなビルになると私道がいらなくなり、また下を通行することによって、上が使えらるということ有効面積が増えること、これも一つの狙いだと思います。

司会 京橋地区に印刷関連業者が集まることのできる広い場所があるといふのですが……(笑) どうも皆さん、本日はいろいろと有難うございました。なんとかまとまったようです。

(文中の敬語は省略させていただきました。)

—新川に超高層オフィスビル— 東京住友ツインビルディング



隅田川の河口、大川端が水辺の環境をいかして、緑と潤いのある街に変わろうとしている。隅田川に沿い、日本橋川をはさんで、箱崎に三井倉庫、新川に三菱倉庫と住友倉庫があり、この三つの倉庫地域の再開発が進んでいる。対岸の佃島には三井不動産、住宅都市整備公社によるリバーシティ計画が進行中である。この二つの都市開発を合わせて、大川端再開発と呼んでいる。

この大川端再開発の第一号として、住友倉庫跡地に二棟の超高層オフィスビル「東京住友ツインビルディング」が二月に誕生した。

隅田川のほとりに建つこのビルは周辺に公開地としての緑地帯が設けられており、ゆと

り“と”うるおい”のある、入居者にとって快適で能率よく執務、活動できるオフィスビルである。

二棟ともビルの外観はほとんど同じように見えるが、その内部は少し異なっている。

東館は地上24階、地下3階でテナントビルとしての効率を考え、西館は地上21階、地下3階で、本社ビルとしての機能をもりこんで設計されている。

敷地面積は22、154㎡で東京ドーム球場の約2分の1の広さである。建築面積は6、439㎡で敷地の約3分の1を占め、残り3分の2は緑地帯となっている。延べ面積は128、097㎡となっている。

東館には住友倉庫、国際証券、野村総合研究所、住友信託銀行、住友銀行など金融、サービス業が入居し、西館は住友海上火災保険が使用している。

このオフィスビルは、情報化、国際化時代の要求に応える通信機能、オフィスオートメーション機能、ビルディングオートメーション機能を備え、より快適な執務環境をめざしている。いわゆるインテリジェントビルといえる。

各フロアは柱のない広いスペースをもち、オフィスのレイアウトを容易にしている。特に“OA”に対応できるオフィス“に重点をおき、集中型OAから人とOA機器の共存する分散型OA時代の要求に応えられる、機能的で快適なオフィスをめざしている。

これから開発される新しいOA機器の導入、

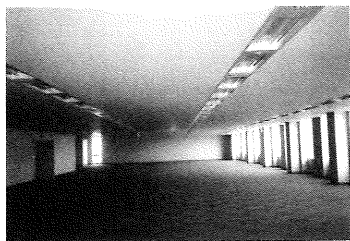
更改、配置替えに容易に対応できるように、十分な電源容量、ルーバー取付（外光、照明の映りこみ防止）、増灯可能な照明器具、大容量床配線ダクト、タイルカーペットなどゆとりのある設計となっている。

空調は発熱量に応じてキメ細かく対応できるように、各フロアごとに個別分散型の空調機を天井内に設置して、個別制御や部分運転を可能にしており、24時間対応の快適なオフィスを実現している。

またビル全体の不燃化、電化システム、耐震設計、防火区画の徹底、最先端のビルディングオートメーションシステムなど、安全面でも十分な対策が講じられている。

本社ビルとなっている西館では多くのOA端末を大容量の光ファイバケーブルでホストコンピュータと結びローカルエリアネットワークをつくり、最新のOAシステムを実現している。処理する業務内容は担当事務所、電話番号照会、電子メール、会議予約照会、電子伝票、スケジュール登録管理、受付システム、総合オンラインシステムなどである。

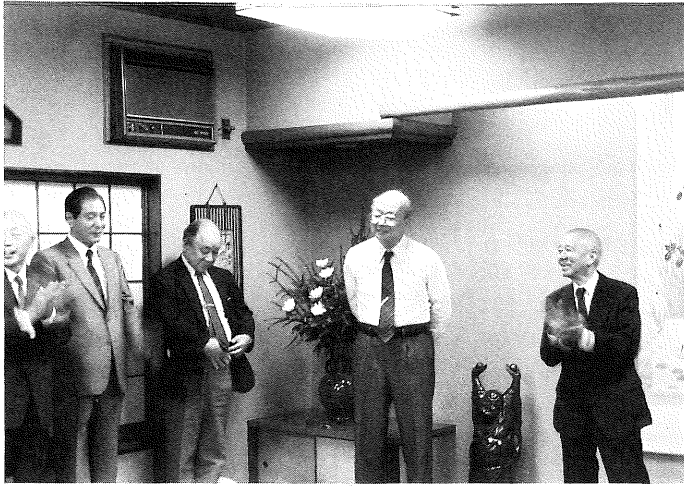
倉庫街からオフィス街へと変わったこのビルは、大川端再開発の中心地ともいえる新川地区の将来を暗示しているようにもみえる。



顧問・相談役・参与の会

6月6日、午後5時より、新富麗金楼にて、大竹新支部長のもとに、新執行部の初めての、顧問・相談役・参与の会が開かれました。

まず、大竹支部長により新支部長就任の抱負がのべられました。続いて小宮山副理事長が支部役員としての立場から、「4人の本部役員が京橋から出る事になり、今後頑張つてゆきたい。については、支部選出の理事が今年は8名出ましたが、255名以下に組合員数が減ると又1人理事

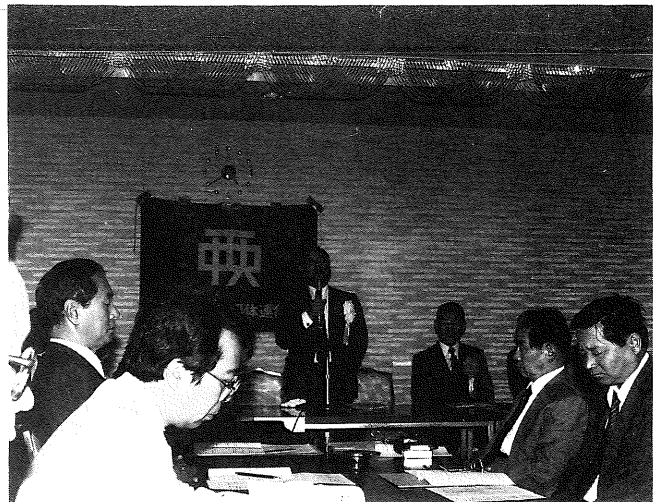


枠が少なくなるので、何とか組合員減少に歯止めをかけていただきたい」と挨拶があった後、続いて大竹支部長により、新しく相談役に推薦をしたい方々の名前が出されて全員の手拍りの次に次の4氏の方が新たに相談役になりました。高千穂印刷(株)・小山英美氏、(株)榎本印刷所・榎本栄七郎氏、文寿堂印刷(株)・加瀬文吉氏、(株)互美術印刷・小倉武治氏、又、新しい参与には、聖文社印刷(株)・田島弘氏、(株)白橋印刷所・白橋達夫氏がそれぞれ紹介されました。

中央区工団連定期総会

続いて、斎藤顧問が乾杯の音頭をとって、一同杯を上げて乾杯をしました。

昭和63年度工団連総会が5月25日、午後4時から中央会館にて、宝田会長の挨拶の後、宝田会長が議長となり、河北副会長の開会宣言で開かれました。まず児玉副会長により62年度事業報告が行われ、続いて平林副会長より62年度収支決算報告が行われて、同会計監査報告が栗田会計により行われ、それぞれ拍手の内に承認されました。続いて役員改選に移り、二期半を務めた宝田会長の後任として、最多会員の所属する印刷・京橋支部から、児玉副会長が会長に選ばれました。副会長には、丸清治、石曾根啓悦、河北幹生、小葉忠昭、村松敏一、大竹次郎、島佐正年の各氏、会計には平林智司、岸田俊辰の2氏が選任されました。宝田会長に替って、新任の児玉会長が新たに議長になって、昭和63年度事業計画案が石曾根副会長により、又同収支



予算案が平林会計によりそれぞれ説明されて、可決承認されました。この内、今年度の事業として第5回中央区工業文化展が、今度新築された区立月島社会教育会館で、10月20日から4日間開催される事がまりました。

続いて来賓の祝辞に移り、まず矢田区長の挨拶が行われました。矢田区長は都心区として、人口回復のため全力をつくしてゆきたいとして、そのために地場産業の育成にとめたいと述べました。この後、区議会議長や商団連からの祝辞があった後、来賓の紹介が行われて総会は終了しました。

京青会総会 新会長に松岡氏

4月25日(月)、築地スエヒロ別館にて18時より京橋支部印刷人青年会の定時総会が開催されました。当日は大竹新支部長所用のため、前執行部の小山支部長、白橋副支部長が出席しました。まず岸会長の挨拶のあと62年度事業報告、会計報告が行われて承認された後、63年度事業計画(案)、会計予算案が提案されて承認されました。続いて京青会新会長に松岡誠一郎氏が岸会長によって昨年の幹事会にて内定した事が紹介され、拍手の内に紹介されました。

挨拶に立った松岡新会長は、来年は京青会も満10周年になるので、記念事業を企画しており、そのために、今年度は少し予算を節約していきたいと抱負を述べました。続いて新役員が紹介



されて、副会長に(有)幸文社石井印刷所、石井治久氏、(株)白橋印刷所、横山明夫氏、会計担当に(有)進和堂印刷所、鈴木隆氏の各氏が紹介されて拍手の内に承認されました。そして来賓として小山前支部長が、この2年間の支部事業への協力を感謝すると共に、この京青会の誕生時の京青会担当の副支部長として、不透明の時代“を乗り切ってきた会員の努力を讃えると共に、今後も京橋支部の発展に尽力願います、と挨拶して総会を終了しました。続いて別室で懇親会が行われ、岸・松岡の新旧会長が握手をして、バトンタッチが行われました。続いて白橋副支部長により乾杯の音頭がとられて、一同、賑やかに歓談となり、来賓として招かれた文化産業信用組合京橋支店長、藤木氏の挨拶等をまじえながらご馳走を前にして松岡執行部の門出を祝い、盃を重ねて二次会へと繰り出してゆきました。(岩本)

中央区商工団体対抗

ソフトボール大会

7月31日(日)、戻り梅雨の様子が続いていた天気も、前日からやっと上り、夏らしい暑さとなった当日、月島グラウンドにて、8時から第4回商工団体対抗のソフトボール大会の開会式が行われました。当日は印刷関係は、毎回出場している京青会チームの外に、(株)白橋印刷所、(資)渡辺製版印刷所・日本橋支部からも青年会チームが出場、各地区商店街チーム等が16チーム参



準優勝した白橋印刷所チーム

加して熱戦を展開しました。京青会チームは初戦に日本橋浜町商店会チームと対戦して大差で敗れました。又敗者復活戦にも少差で敗れて日頃の運動量の差が出たようでした。

それに引きかえ、(株)白橋印刷所チームは、緒戦に勝って、うまく調子の波に乗り、あれよあれよというまに準決勝に進み、決勝戦では接戦の末惜しくも東銀座商店会チームに敗れましたが、賞状と賞品を手に意気揚々とがいせんしました。昨年度は一勝も出来なかつたのに、今年

は練習の成果が出て報いられたようでした。(岩本)

地区たより

築地区互友会五月例会

互友会の5月例会は27日午後5時半から「天六」で開かれた。この日は大竹新支部長が姿を見せ親しく会員諸氏と懇談しムードを盛り上げるなど、新支部長の意欲が十分に感じられる例会となった。

互友会の後任地区長の選任が予想外に難産し、また新任幹事も決定が遅れるなど築地区は全般に暗いムードだったが、何とか例会までに決定就任を見たので皆一様にホッとした表情を見せていた。

例会はまず近藤前地区長より、新地区長と幹事の決定が遅れたことのお詫びに続いて、新地区長長の春原英夫氏（すのはら印刷）と新幹事では常任の佐野務氏（大興印刷）の他、新幹事の土井嘉光氏（土井印刷）、今竹茂氏（福田印刷工業）の各氏が紹介された。このあと昭和62年度会計報告が行われ承認された。

このあと近藤前地区長より新地区長選出のいきさつが報告された。この中で注目されたのは、現行のような新地区長選出に難航が続いているようでは組合という組織よりサロン調（老人クラブ）になる恐れがあり、今後の互友会の運営に大きな支障をきたすので要注意ありとして、問題点にふれる退任の弁があった。このあと春原新地区長より就任の挨拶があり、大要次のよ

うに述べた。「互友会は今後どう生き伸びるか瀬戸際に立たされている。故にお互いに今後一層協力し合い組合員で良かったと実感出来るような会になって行くことが肝要である。そのために皆で智慧を出し合って協議してゆきたい。今後出来るだけ若手の参加を願っている。又現場の若い人達の意見を集めてどう生き伸びるかを協議して行きたい」と斬新な所信を述べると共に協力を要請した。このあと今年度の日程の説明、秋の旅行先を伊豆の堂ヶ島温泉に決めたことが報告された。

引き続き大竹支部長の所信表明を含めた挨拶があった。この中で大竹支部長は「京橋支部は印刷組合として強力な力を持っている。これからの印刷は作ることに、売ることの二極分化になるだろう」と述べ注目された。

このあと長老の加藤秀さんの音頭で乾杯して懇親会に移り、久々の会話が大きな笑いの中で続けられた。午後8時、神田半三さんの中めで盛やかな内幕を閉じた。
(近藤記)

支部の動き

6月3日 小山・大竹新旧支部長挨拶廻り 於

・中央区役所、京橋税務署、京橋法人会、東商中央支部、国民金融公庫等

6月6日 顧問・相談役・参与の会 於・躍金楼、会費1万円(本文参照)

6月8日 中央区工業文化展実行委員会 於・中央区月島特別出張所、荒木・増田副支部

長出席

6月19、20日 中央区工団連宿泊研修・見学会

於・磐梯熱海温泉、水月園一力、講演。翌日、日本たばこ産業(株)郡山工場見学約50名

6月22日 京橋支部文化展実行委員打合せ

6月24日 支部臨時部長会

6月24日 印刷同友会、京青会共催講演会 於

・築地スエヒロ、印刷産業15兆円を目指して「講師・学習院大教授、渡部福太郎氏

6月30日 工業文化展打合せ 於・支部室、大竹支部長、商工課、日本印刷新聞社

7月6日 工業文化展印刷関連分科会 於・支部室、印刷日本橋・京橋、軽印刷、製本等

7月6日 本部支部長会 於・印刷会館2階

7月14日 部長・監査・地区長会

本部支部長会報告事項

1、本部事業推進について協議事項

・2特問題に関する通達について

・構造改善計画承認について

・需要開拓ニュース、虹について

・印刷需要拡大研修会について

・商工中金直貸に係る委託金について

・第22回「敬老の集い」開催について、

9/14

・第37回永年勤続従業員表彰式開催、10

15

・第11回有機溶剤作業主任者技能講習会の開催について、9/21、9/22

2、当面する支部事業について

・印刷需要拡大研修会の支部開催の件、

月島地区にて主催、他地区も参加。

・中央区工業文化展の展示物について、日本印刷新聞社に依頼して展示物をきめていく、10/20、10/23、月島社会教育会館

・8月部長・監査・地区長会の開催は、新年会会場の下見をかねて、8/28、熱海、水葉亭

・各委員会報告

・その他、支部報発行の各地区へ1万円補助。中央区工業文化展協賛金の件

7月21日 本部理事会 於…全印健保会館

7月27日 工業文化展印刷関連分科会 於…支部会議室、日本印刷新聞社の企画を検討

7月28日 東京地区印刷協議会開催の件 於…池袋、白雲閣、全印工連の事業を協議

7月31日 中央区ソフトボール大会 於…月島グラウンド、京青会出場

8月4日 需要開発拡大研修会 於…月島社会教育会館、月島地区主催、支部協催、日本プリンティングアカデミー教授、高畑伝氏

他、33名出席

8月28日 部長・監査・地区長会 於…熱海、水葉亭、会費1万円也。新年会場下見行

支部員の異動

脱退組合員(63年7月現在)

・永光印刷(株)(湊地区) 奥抜良助殿

・(有)鈴木秋春印刷所(新川地区) 岡村秋春殿

・(株)弘道館(新川地区) 澤田弘道殿

所在地移転

・(株)三秀社印刷所は江東区千田10-6に移転、社名も、三秀(株)と変更、電話は649-0340になりました。

慶事

・(株)王友社(入船地区)、松橋強氏長女御結婚(6月)

編集後記

冷夏とはいえ残暑きびしき折、皆様には益々ご健勝のこととおよろこび申し上げます。

支部報「京橋の印刷」を発刊するに際して、各地区が自由に企画・編集し、地区の特色をもちこんだ支部報にしてはどうか、という提案が大竹新支部長よりありまして、地区長会で全会一致でままりました。

その第一号担当のクジを新川地区が引きあてました。支部報の性格上、本・支部の方針、行事の紹介、そして組合員の親睦を目的とした記事が要求されることは当然ですが、そこにプラスアルファを持たせることが新支部長の意図と、思い、たまたま支部長が当地区員でありますので、ご指導を仰ぎ、座談会をトップ記事にすることにしました。

自由化の時代“各業界ともその垣根がとりはらわれつつあります。これは私も印刷業界にもいえると思います。そこで他業種の方のお

話を聞くことも有意義なことではないかと思ひ、新川の地場産業の代表として印刷業、酒販業として都市再開発のバックにある銀行業の方々をお招きして、新川の過去・現在・将来について話していただきました。

私どもの知らないこと、同感できること、内容は多岐にわたりますが、豊かな内容の座談会であると自負しております。個々の問題については、他地区の皆様とは事情が異なりますので参考にはならないと思いますが、全体の流れをご理解いただければ幸いです。

最近インテリジェントビル(賢いビル)付加価値を備えたビルという言葉を目にします。当地区に超高層のインテリジェントビルができましたので紹介しました。

編集をおえて、今までの支部報とは変わったものになると思ひます。種々ご批判もあると思ひます。ご意見をお寄せいただければ幸いです。より良い「京橋の印刷」となることを願いつつペンをおきます。

最後にツイインビルの記事につきましては、東京住友ツイインビル新築工事共同企業体工務事務所 所の真柄正裕様に、本誌の編集につきましては京橋支部の岩本書記にご協力いただき、深く感謝いたします。

表紙の写真は真柄正裕様、東京真宏印刷(株)の久保田貢一郎様に提供していただきました。

(新川地区長)